

教員名	片岡美喜	所属学科	観光政策学科
【ゼミでは何を学ぶのか】			
<p>片岡ゼミでは、農山村地域をフィールドに、エコ・ツーリズムやグリーン・ツーリズムの観点から、地域における経済的、社会的発展と資源の活用・保全をよりよく行っているための方策について検討しています。</p>			
<p>本ゼミの目標は、以下の4点です。</p>			
<p>(1) 専門分野の学習や議論を通じ、深く思考することによる人格形成を目指す。</p>			
<p>(2) 地域調査を通じて、理論と実態の反復的な学びを目指す。</p>			
<p>(3) 地域活動への参画による社会人等との交流や協働を通じ、実社会を学びながら、個々の能力の発揮とチームワーク力の涵養、将来を考える契機の提供を目指す。</p>			
<p>(4) ゼミ活動を通じた交流や協同により、自己にとって重要なテーマ、生涯を通じた仲間や出会いを見つけることを目指す。</p>			
<p>上記の目標の実現のために、各学年において専門学習を通じた取組課題を設定して、学習と実践の機会を作っています。</p>			
【どのように学ぶのか】			
<p>本ゼミでは、2年次のゼミ分属後から学習と活動を開始しています。専門書の輪読に加え、グループ研究、3年生らと合同でのゼミ合宿や地域活動への参加を早期の段階から取り組ませています。2018年度の2年生は「南牧村における移住・定住問題」「みなかみ町・たくみの里における農村観光」について現地調査を行いました。</p>			
<p>3年次では、演習Ⅰの講義にてエコ・ツーリズムやフィールドワーク手法などに関する専門書の学習を行っています。専門書の学習に際しては、LTD（話し合い学習法：Learning Through Discussion）の手法を用いています。LTDは、各人が予習をすることが必要であり、参加者全員で文献に関する討議を行うため、学生の自発性の促進や深い思考の涵養につながっています。</p>			
<p>3年次のグループ研究では、例年秋季に東京大学にて開催される全国エコ・ツーリズム学生シンポジウムでの研究発表を目標に調査研究を実施しています。昨年は、群馬県片品村をフィールドに農産物直売所における6次産業化や若者のための直売所のあり方について研究を行いました。実際に直売所の加工所を使わせてもらい、花豆せんべいなどの開発を学生自身が行いました。</p>			
<p>演習Ⅱでは、大学生活の集大成として、年間を通して卒業論文の執筆を行います。論文のテーマ選択については、本ゼミで学んできた専門をより深く追求することもですが、将来の職業や自己の生き方に関わるものなど、生涯を通じて関心を持てるテーマを選択するように指導をしています。</p>			
【学んだことはどのように生かせるのか】			
<p>本ゼミでは、エコ・ツーリズム、グリーン・ツーリズムを通じた地域づくりを学ぶことで、観光による地域振興に関する基本的な視座や手法を学ぶことができます。</p>			
<p>ゼミOBの具体的な進路として、観光・交通分野（JR、近畿日本ツーリスト、農協観光、ホテル、旅館など）、エコツーリズム団体のインタープリター、行政職員（桐生</p>			

市役所、小布施町役場、筑西市役所、片品村役場など）、地域振興関連の調査・コンサルティングなどが挙げられます。

【おすすめの入門書・基本テキスト】

(2015年度 演習 I 用課題図書)

佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社 (2002)

(2014年度 演習 I 用図書)

岡田知弘『地域づくりの経済学入門』自治体研究社 (2005)

(2013年度 演習 I 用図書)

敷田麻美編著『地域資源を守っていかすエコツーリズム

【まだ見ぬ君へのメッセージ】

本ゼミでは私の専門を学生に継承してもらうことよりも、学生が地域社会に興味を持ち、自分で課題を発見して、自発的にゼミでの学習や活動に取り組んで欲しいと願っています。できれば、“Think global”の目線や発想から、自分の地元をはじめとした地域社会を見て、行動に移せるようになって欲しいです。

そのため、本ゼミでは毎年の課題や取組の目標となるものは各学年で協議を重ねて、学生たちで選択しています。成功も失敗もすべて成長のための財産なので、私が学生らの選択や行動に制約をなるべくかけないように勤めています。

自然が好きな人、食や農業に関心がある人、地域資源を活かした観光について関心がある人はぜひ本ゼミでいっしょに学びましょう。